

日本語上級学習者が用いる漢字の筆順に関する一考察

田村 泰男

0. はじめに

日本語教師は、外国人学習者に漢字を教える時、読み方や意味だけではなく同時に筆順も教える。そして、学習者が指導した以外の筆順を用いて漢字を書いた時、多くの場合それを誤りとして矯正させようとする。無論、学習者に決まった筆順を強制するには理由があるからである。このことに関して、武部（1989）¹⁾に次のように述べられている。

「・・・漢字のように複雑な画の組み合わせになると、そのつどお手本を見てかっさに書いたのでは、覚えることができない。漢字というのは、目で見て覚えるよりも、手で書いて覚えるほうが効果的であり、それも一定の筆順に従って書くほうが覚えやすい。筆順というのは、漢字を覚えやすくするために強制するのであり、そのほうが学習者にとっても好都合なのである。」

「それぞれの文字の同一の構成成分²⁾は、一定の順序によって書かれるように整理されていることが、学習指導上効果的であり、能率的でもある。」

「・・・筆順の選定に当たっては、全体の形を整えやすくする面が考慮の対象となっている。」

「・・・漢字というのは、慣れてくると多少とも続け書きをするものである。このような続け書きが行書化であるが、当然のこととして、筆順に従って続けて書いていく。そのとき、筆順が異なると、でき上がった形も異なってしまい、読みにくくなるのである。・・・筆順というのは、覚えるため、整えるためだけでなく、崩れ方を一定にするためにも、絶対に必要なのである。」

また、「新漢字必携」（1995）³⁾には次のように書かれている。

「筆順というものは、字全体の形が正しくしかもよく整った形に無理なく書くことができるようにと、長い間にわたって考案され、伝えられてきたものであるから、その方法にそって文字を書けば、最も効果的であり、また効果的であるということができる。いいかえれば、筆順は最も形の整った美しい字を書くことのできるいちばんよい方法なのである。」

これらをまとめれば、筆順を教える目的は次の二点に集約できるだろう。

①覚えやすくする。

②文字全体の形を整え、美しい字を書く。

しかしながら、実際のところ学習者が決められている筆順に従わないで漢字を書くことも珍しくはない。それが単に筆順を覚えていないからなのか、間違った筆順を覚えてきたからなのか、あるいは何らかの類推によってそうなったのかは、実際のところよくわからな

い。

そこで、筆者は、筆順が最も定着しているであろう上級学習者を対象として、学習者が漢字を書く時の筆順を調べてみた。

本稿は、学習者が用いた筆順を、筆順の原則に照らし合わせながらみていこうとするものである。

1. 調査の概要

調査は、上級レベルに属する学生20人を対象に行ったが、今回はそのうち非漢字圏出身の16名についてまとめてみることにする。出身国及び学内での身分は次の通りである。

マレーシア	4名	ニュージーランド	3名	インドネシア	1名
アメリカ	1名	タイ	1名	フランス	1名
オランダ	1名	イギリス	1名	オーストラリア	1名
モンゴル	1名	シンガポール	1名		
日本語・日本文化研修留学生	8名	学部生	4名		
教員研修留学生	2名	研究生	2名		

調査は、次のような質問紙を配って行った。なお、筆順を番号で書き込んでもらう必要上、文字はかなり拡大したものをを用いた。

[質問紙]

〔1〕一画目はどれですか。よくわかるように番号を付けなさい。

(1) 十 (2) 七 (3) 九 (4) 力 (5) 入

〔2〕 によ (走・之・廴・是・廴) を先に書きますか、後に書きますか。

によを先に書く漢字に○を付けなさい。

(1) 起 (2) 近 (3) 建 (4) 題 (5) 廴

〔3〕よくわかるように書き順を番号で示しなさい。

(1) 花 (2) 状 (3) 女 (4) 子 (5) 上

(6) 右 (7) 布 (8) 左 (9) 友 (10) 小

(11) 当 (12) 火 (13) 王 (14) 不 (15) 可

(16) 収	(17) 万	(18) 共	(19) 夫	(20) 井
(21) 性	(22) 父	(23) 用	(24) 田	(25) 戸
(26) 非	(27) 兆	(28) 必	(29) 中	(30) 世
(31) 赤	(32) 業	(33) 楽	(34) 国	(35) 司
(36) 区	(37) 臣	(38) 車	(39) 防	(40) 重
(41) 馬	(42) 飛	(43) 成	(44) 帶	(45) 発
(46) 印	(47) 皮	(48) 母	(49) 角	(50) 寒

2. 文字全体からみた筆順

筆順に関する個々の原則をみていく前に、ここでは今回取り上げた漢字について一画目から最後の画まで通してみた場合、何人が筆順通り書けているかを表にしてみる。表に挙げた漢字は、質問紙の中の〔1〕及び〔3〕で尋ねた五十五の漢字である。

(表1)

16人	友、小	8人	赤
15人	十、力、不、夫、井、父、中	7人	入、万、性、必、世、重、皮、母
14人	七、子、司	6人	上、兆
13人	左、共	5人	九、状、国、区、防、成、帶、角
12人	花、当、王、業	4人	馬、飛、寒
11人	用、楽	3人	可、臣、発
10人	火、戸	2人	布、収
9人	女、田、非、車、印	1人	右

次章とも関連があるのであるが、(表1)からおおよそ次のようなことが言えるであろう。

- (1) 漢字によって、正答者数に大きな違いが見られる。
- (2) 正答者の多い漢字は比較的画数の少ない漢字が多いが、画数が少なくても正答者の少

ない語もある。

- (3) 日本人にとって筆順が難解である漢字 (eg. 「臣」「発」「馬」「飛」「寒」 etc.) は、外国人学習者においても筆順の誤りが多い。
- (4) 「友・左」／「布・右」、「司」／「可」、「力」／「九」、「用」／「角」などのように似た形をもつ語の筆順は、一方の正答者数が多く、他方が少ない傾向にある。ただし、「区」「臣」はいずれも正答者が少ない。

3. 筆順の原則と留学生の用いた筆順

この章では、筆順の原則を個別に見ていき、学生が当該の原則通りに解答しているかどうかを正答者数及び正答率で表し、考察を加えることにする。

ただし、ここでは「上から下へ」「左から右へ」という原則については、独立した項目は設けず、必要に応じてこれらに言及することにする。

3.1 横画と縦画が交差する場合

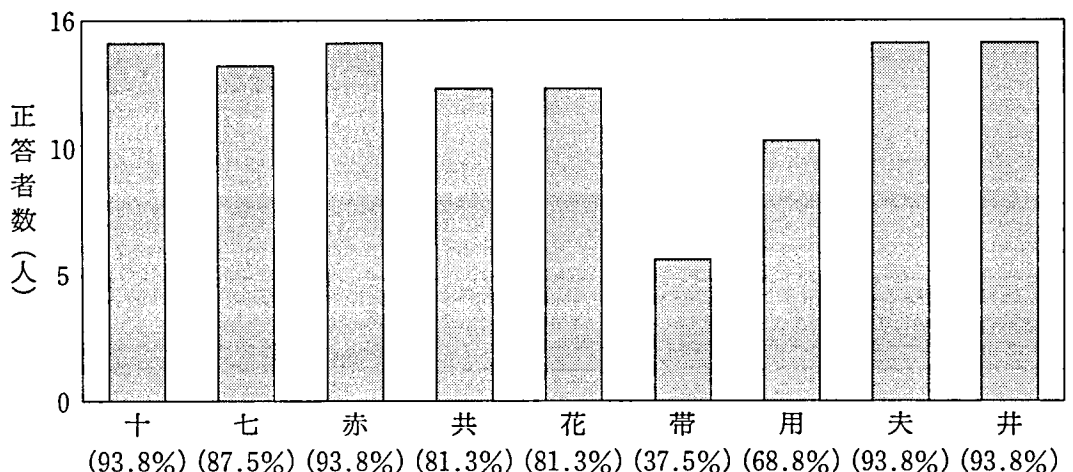
[原則1]

横画と縦画が交差しているときは、横画から先に書く。

縦画が二本以上の場合や横画が二本以上の場合、縦画・横画がともに二本の場合も、横画を先に書く。

ここで扱った漢字のうち、「赤」は「艹」の部分、「共」は「卩」の部分、「花」は「艹」の部分、「帯」は「巾」の部分、「用」は「巾」の部分の筆順だけを問題とし、残りの「十」「七」「夫」「井」は漢字全体の筆順が正しいかどうかをみた。

(表2)



(表2) から明らかなように、「帯」の正答者数が極端に低いが、これは「𠃉」の中の「𠃊」の部分を一画分として答えた学生が7人もいたからである。一画目を横画から始めたかどうかだけみれば、16人中10人が正しく書き始めている。

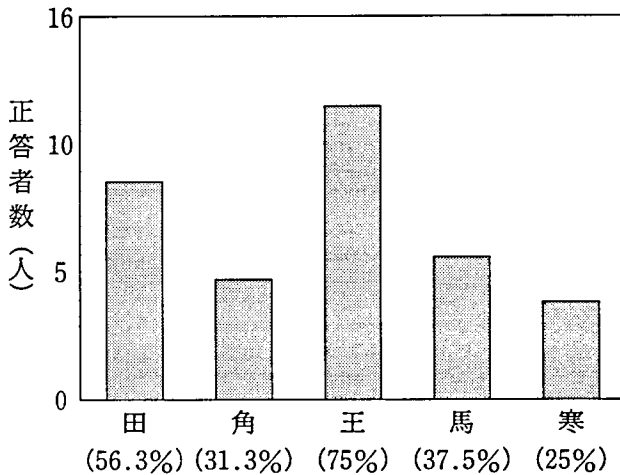
「帯」を除いた八つの漢字の平均正答率は86.7%となり、[原則1]についてはほぼ習得できていると言えそうである。

[原則2]

横画と縦画が交差していても、「田」や「田の発展したもの」の場合、「王」や「王の発展したもの」の場合は、縦画を先に書く。

ここでは、「田」の「+」の部分、「角」の「+」の部分、「王」の「+」の部分、「馬」の「𠃉」の部分、「寒」の「𠃊」の部分の筆順について扱う。

(表3)



(表3) から明らかなように、[原則2] の代表例として挙げたこれら五つの漢字の正答率の平均は45.0%と、[原則1] に比べるとかなり低いことがわかる。つまり、[原則2] を適用すべきところを、[原則1] を適用して横画から書き始めているのである。また、「田」や「王」に比べ、それぞれから発展した「角」、「馬」「寒」の正答率は低くなっている。

3.2 中と左右をもつ場合

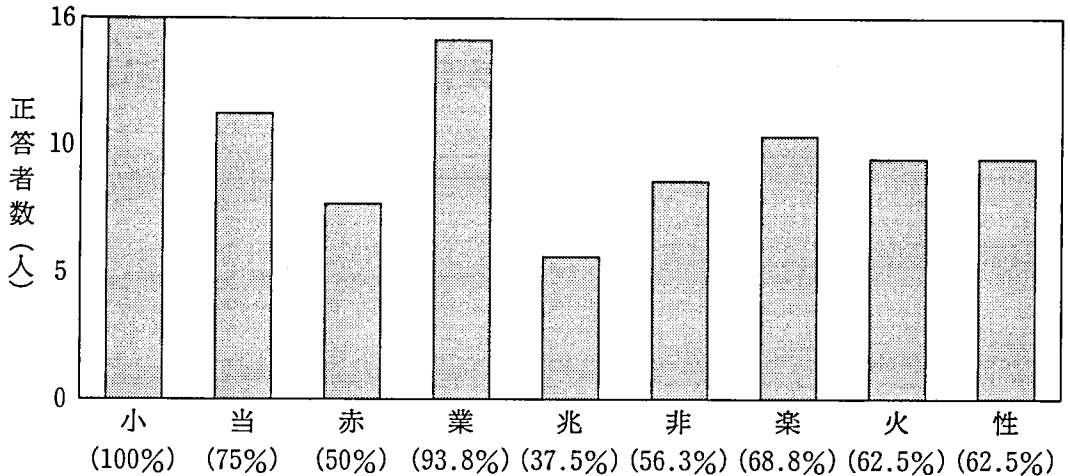
[原則3]

中と左右があって、左右が一・二画のときは、中の画を先に書き、それから左右の順に書く。中が二本になっても、あるいは少し複雑になっても、中の画を先に書く。

ただし、「火」の場合、「𠃊」(りっしんべん) の場合は左右、中の順で書く。

ここで扱った漢字のうち、「当」は「𠂔」の部分、「赤」は「𠂔」の部分、「業」は「𠂔」の部分、「楽」は「𠂔」の部分、「性」は「忄」の部分の筆順を、残りの「小」「兆」「非」「火」については漢字全体の筆順が正しいかどうかをみた。

(表4)



(表4) から言えることは、原則からはずれる「兆」「非」は正答率が低く、二つの例外である「火」や「忄」も正答率がそれほど高くないということである。また、「赤」の正答率が低いことも注意を引く。ここで、「兆」「非」「火」「性」「赤」の誤答の内訳を表に表してみることにする。

(表5)

漢字	左から順番に書いている	中、左右の順番で書いている※	その他	誤答の合計
兆	4	1	5	10
非	5	0	2	7
火	1	4	1	6
性	0	6	0	6
赤	3	0	5	8

※中が二画ある漢字については、中の左側→中の右側→左→右の順で書いてあるものだけを含め、それ以外は「その他」に含める。

「兆」と「非」に関しては、誤答の多くが、これらの漢字が中、左右の構造をもつということを念頭に置かずに行ったための間違いであることがわかる。また、「火」と「忄」に関しては、これらを例外として扱わず、原則通り書いたため起こった誤答であるというこ

とがわかる。「赤」に関しては、左から順に書いている者が3人、中から書いているのだが、中の右側→中の左側→左→右の順番で書いている者が4人いた。誤答にもある規則が働いていると言えそうである。

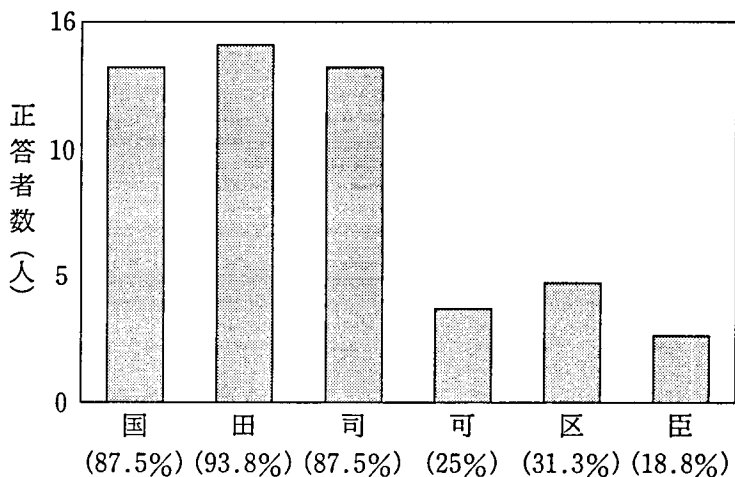
3.3 外側と内側をもつ場合

〔原則4〕

囲む形のは、外側の囲みを先に書く。

ここで扱った漢字のうち、「国」「田」については、一画目・二画目と最後の画を使って「口」を書いているかどうか、「司」については、一画で一画目に「冂」を書いているかどうか、「可」については、一画目で外の横画、最後の画で外の縦画を書いているかどうか、「区」については、一画目で上の横画を書き、最後の画で「凵」を書いているかどうか、「臣」については、一画目・二画目の「冂」を正しい筆順で書き、最後の画で一番下の横画を書いているかどうかを調べた。

(表6)



(表6) から明らかなように、「国」「田」「司」に比べて、「可」「区」「臣」の正答率はかなり低い。このうち、「可」に関しては、誤答した12人全員が外側(外の横画→外の縦画)を最初に書いており、「司」との混同が見られる。「区」に関しては16人中12人が一画目(上の横画)は正しく書いていたが、二画目になると正答者は5人にまで減っていた。また、「臣」に関しては、16人中12人が一画目を上の横画から始めており、「区」と同じ規則を適用して書こうとしていることがわかる。

3.4 線がつきぬけている場合

[原則 5]

字全体をつらぬく縦画は、最後に書く。

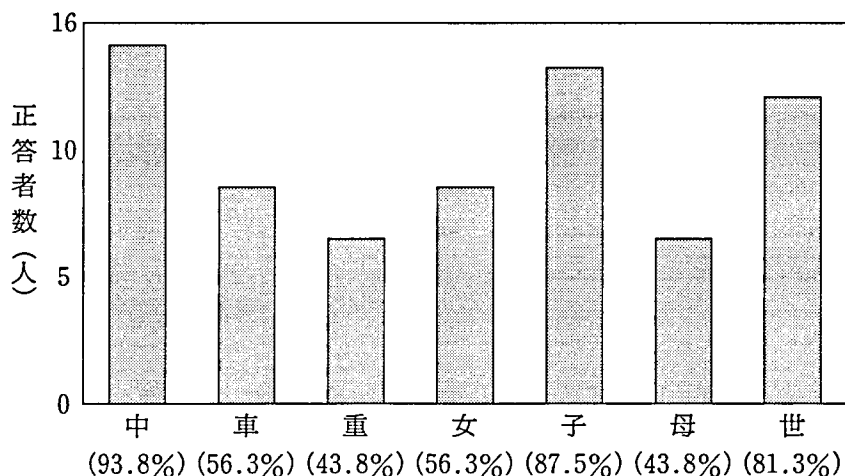
上にも下にもつきぬけない縦画は、上部・縦画・下部の順に書く。(eg.重、里 etc.)

[原則 6]

字全体をつらぬく横画は、最後に書く。

ここでは、「中」「車」「女」「子」「母」については、つらぬく画が最後に書かれているかどうか、「重」については、「上」の部分が最後に正しい筆順で書かれているかどうか、「世」については、つらぬく横画が一画目に書かれているかどうかについて調べてみた。

(表 7)



(表 7) からわかるように、漢字によって結果が違っている。ここで目に付くのは、初級で必ず筆順を習うであろう「車」「女」「母」の正答率が低いことである。これらの誤答の内訳をみると次のようになる。

「車」- 誤答した 7 人中 6 人が、「𠂔」まで書いた後、つらぬく縦画、横画の順番で書いている。

「女」- 誤答した 7 人中 5 人が、つらぬく横画を一画目に書いている。

「母」- 誤答した 9 人中 6 人が、「𠂔」まで書いた後、3 画目につらぬく横画を書いている。

このように、同一漢字において現れる誤答の多くが同じものであり、そこにはある種の規則性があることがわかる。

また、「重」にも筆順の間違が多いが、ここにも規則性があり、「上」の部分を上→縦画→下の横画の順番で書いた者が 4 人、上の横画→下の横画→縦画の順番で書いた者

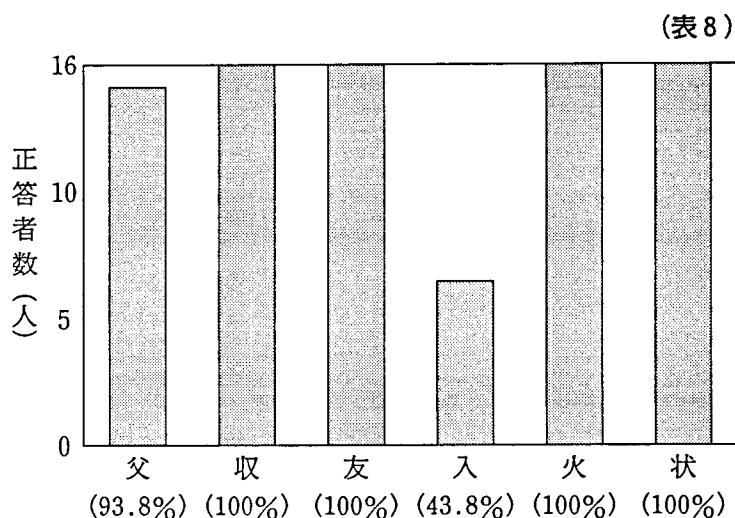
が4人いた。

3.5 左払いの線と右払いの線がある場合

[原則7]

左払いと右払いが交差するときは、左払いを先に書く。左払いと右払いが接するときも、左払いを先に書く。

ここでは、「父」の「父」の部分、「収」の「収」の部分、「友」の「友」の部分、「火」の「火」の部分、「状」の「状」の部分、「入」については全画についての筆順を見ることにする。



(表8) から明らかなように、「入」以外の漢字の筆順についてはほぼ習得できていると言っていだろう。「人」は左払いが上側にくるのに対して、「入」は右払いが上側にくるので、誤った筆順が派生されたと考えられる。

3.6 横画が左へ払う線と交差する場合

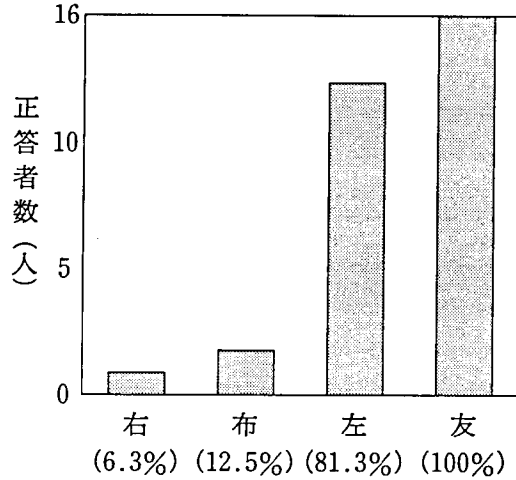
[原則8]

横画が長く、左払いが短い字は、左払いを先に書く。

横画が短く、左払いが長い字は、横画を先に書く。

ここでは、それぞれの漢字の「ナ」の部分についての筆順を見ることにする。

(表9)



(表9) から明らかなように、「右」「布」の正答率は極めて低い。言い換えれば、ここに挙げた「ナ」の部分をもつ漢字は、横画や左払いの長さに拘わらず、横画から書かれることが多いということである。横画・左払いの長さとの関係については上級学習者にも再確認させる必要があるようである。

3.7 先に書く「によう」と後に書く「によう」

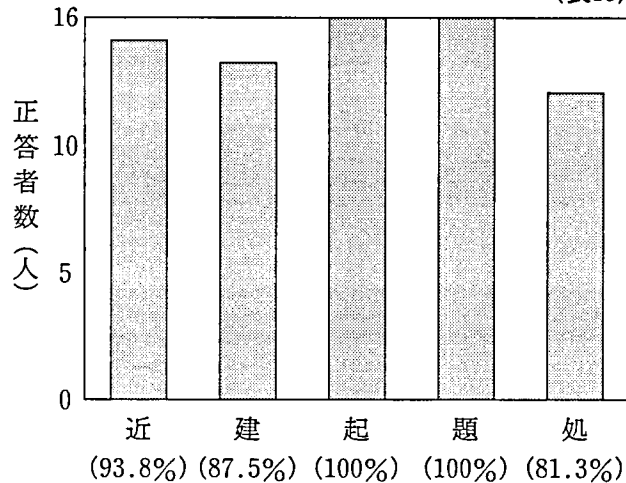
[原則9]

「しん」(しんによう) と「えん」(えんによう) は後に書く。

その他の「によう」は先に書く。

ここでは、「しん」「えん」が最後に書かれているかどうか、「走」「是」「久」が最初に書かれているかどうかについて調べてみることにする。

(表10)



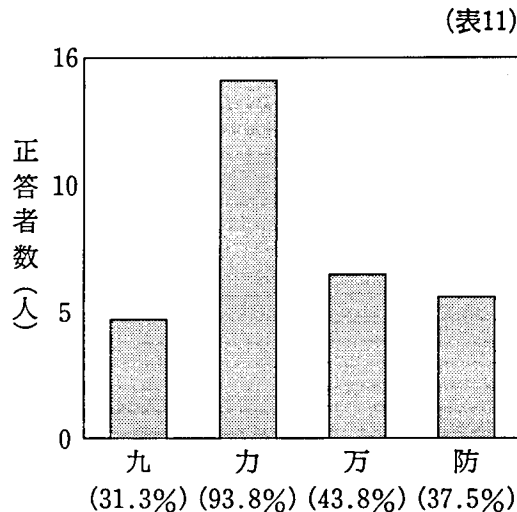
(表10) から明らかなように、「によう」を先に書くか後に書くかということについては、ほぼ理解されていると言えそうである。

3.8 先に書く左払いと後に書く左払い

[原則10]

左払いには先に書くものと後に書くものがある。

ここでは、「万」は「力」の部分、「防」については「力」の部分の筆順について、「九」「力」については、すべての筆順について調べてみた。



(表11) から明らかなように、「力」の筆順についてはほぼ習得されていると言えそうである。また、「九」を書くとき、3分の2以上(68.8%)の学生が「力」と同じ筆順で書いていることがわかる。「万」と「防」の誤答の原因については、「左から右へ」の原則が適用されたものと考えられるが、やはりこの項目についても学習者に再確認させる必要があるようである。

3.9 その他の部分に見られる筆順の誤り

3.8までに取り上げた以外の構成要素で筆順に誤りが多く見られるものを書き出してみると次のようになる。

「収」の「収」の部分—14人が左の部分から書き始めている。

「状」の「状」の部分—11人が左の部分から書き始めている。

「印」の「印」の部分—6人が左の縦画から書き始めている。

「戸」の「尸」の部分－6人が左払いから書き始めている。

「防」の「阝」の部分－4人が左の縦画から書き始めている。

「発」の「彳」の部分－6人が「→」→「↗」の順番で書き、4人が「↘」→「↖」の順番で書いている。

誤りの多くは、「左から右へ」の原則を適用したために起こった誤りと考えられ、「収」「状」において特に顕著である。また、「発」の「彳」の部分にも間違いが多いことがわかった。

4. まとめ

最後に、以上の分析から明らかになったことを記し、本稿のまとめとしたい。

- (1) 正答者の多い漢字は比較的画数の少ない漢字が多いが、画数が少なくても誤答が多く見られる語もある。
- (2) 日本人にとって筆順が難解である漢字 (eg. 「臣」「発」「馬」「飛」「寒」 etc.) は、外国人学習者においても筆順の間違が多い。
- (3) 筆順の原則によっても、正答者数に違いが見られる。
- (4) 「友・左」／「布・右」、「司」／「可」、「力」／「九」、「用」／「角」などのように形の似た構成要素もつ語の筆順は、どちらか一方の筆順に引かれて、もう一方の語の筆順に誤りが出やすい。
- (5) 筆順の原則からはずれる語や例外として扱われる語の筆順に誤りが出やすい。
- (6) 個々の原則において見られる筆順の誤りは、他の原則や何らかの規則の適用によって起きることが多い。

注

1) 武部 (1989) p.88-p.90

2) 武部 (1989) p.89

例として、占 (点・粘・店) や止 (企・祉・渋・齒) などが挙げられている。

3) 「新漢字必携」(1995) p.234

主要参考文献

「漢字の教え方」 武部良明著 アルク 1991年

「新漢英辞典」 ジャック・ハルペン編 研究社 1990年

「新漢字必携－文部省認定 漢検2級コース－」 日本漢字能力検定協会 1995年